第2章 年をとるってどういうこと？

高齢者ってどういうイメージですか？

どのようなことを学びましたか。メモしていきましょう。

11ページから16ページ

ずっとずっとわたしのおじいちゃん

25ページから28ページ　いつもの公園

21ページから24ページ　高齢者の持つ知恵や技能

17ページから20ページ　高齢者を支える地域の取り組み

ずっとずっと、わたしのおじいちゃん

このごろ、おじいちゃんはへんだ。また、今日もわたしが学校へ行くとき、ずっとずっと手をふってる。にこにこして、パジャマのままで。

「おじいちゃん、もう見おくらないで！」

友達に見られたらはずかしいから、わたしが何度も怒って言ってるのに

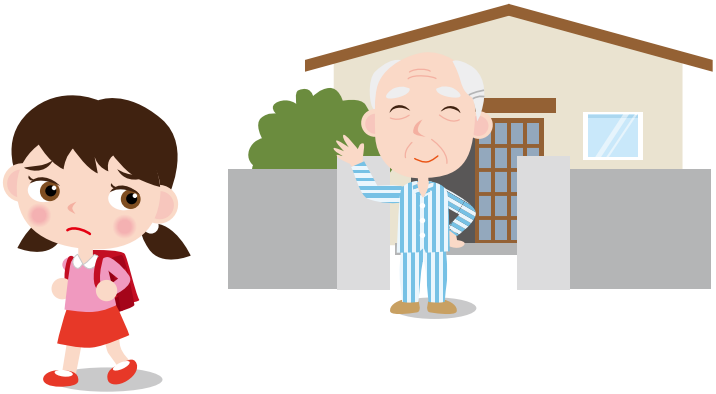
「はいはい。わかったわかった。」

そして、同じことのくり返し。また次の日もパジャマでにこにこと手をふる。

おじいちゃん、なんだかいやだ。大好きだったおじいちゃんのことを、いやだと思ってしまう自分はもっといやだ。

学校から帰ると、おじいちゃんがわたしをまってた。

手に、わたしがかりた図書室の本を、表紙が曲がるくらいにぎゅっとにぎりしめてる。



明日返さないといけないのに。なんで勝手におじいちゃんがもってるの！

「おじいちゃん！」

もう・いやだ。なみだが出てきた。わたしがこまることばかりするおじいちゃん。きらいだ・・・・大好きだったのに。

すると、ないてるわたしを見ておじいちゃんが言った。やさしいやさしい顔で。

「さちこ、なんで泣きようとね。ほら、この本ばやるけん、なきやまんね。」

その本は図書室のなのに。さちこはお母さんの名前なのに。

目の前がまっかになって、心が爆発した。

「おじいちゃん、いやだ！」

力まかせに本を引っぱってしまった。

すると、はずみでおじいちゃんがよろけた。それなのに、

「さちこ、だいじょうぶね。」

さちこはお母さんの名前だよ！

「わたしはともこだよ！さちこじゃない！！」

自分の部屋のベッドにもぐり込んで、急にふりだした雨の音を聞いていると

なみだが出てきた。すると、お母さんがそおっと入ってきた。

わたしがだまっていると、お母さんはわたしのせなかをトントンとたたきながら話しはじめた。

「お母さんが小さいとき、おじいちゃんはこわかったよ。ぎょうぎが悪かったりやくそくを守らなかったりすると、それはそれは大きな声でかみなりを落とされたのよ。でも、お母さんがふとんの中で泣いてると、せなかをトントンしながら『さちこ、もうなきやまんね。』って言ってくれたものよ。きびしいけど、世界一やさしいお父さんだった。」

なんだかふしぎな気持ちになった。

おじいちゃんはお母さんのお父さんで、昔からおじいちゃんじゃなかったんだな。

「もう何年も前から、おじいちゃんわすれっぽくなったでしょ。人や物の名前だけじゃなく、いつも通る道がわからなくなって、すごく遠いところへ行ってしまってたり、今日が何年の何月かが急に

わからなくなったりするようになったよね。
お母さんは、帰れなくなったおじいちゃんを何度も
むかえに行きながら、はらがたって悲しくて、
おじいちゃんにひどいことを言ってしまったこと
もあるの。おじいちゃんが変わっていくのが、
悲しくてくやしかった。」
　わたしもお母さんといっしょだ。おじいちゃんが
今までのおじいちゃんじゃなくなっていくのが
悲しかった。お母さんは大きななみだを
ぽとりと落としながら話し続けた。
「でも、一番悲しかったのはきっと、おじいちゃんだよ。時々、元気なころのおじいちゃんにもどるとき
があってね。その時、おじいちゃん泣きながら『おれはどげんしたとかねえ・・・。』何度も何度も

つぶやいてた。それを聞いたとき、おじいちゃんにかわいがってもらったときのことが目の前にあふれてきたの。今でも、おじいちゃんにとってお母さんはずっとずっと変わらない、かわいいさちこちゃんなんだって、よくわかったの。」

お母さんの話を聞いてわたしもわかった。

おじいちゃんは変わったけど、本当は変わっていないんだ、と。

いつのまにか、雨音は消えていた。

次の朝、雨上がりの道を学校へむかうわたしに、いつものように、おじいちゃんは手をふっている。

うれしい気持ちになっている自分がふしぎだった。

「おじいちゃん、行ってきます。」

と、自分でもびっくりするくらい、元気な声が出た。

おじいちゃんに手をふって学校への道をいそいでいると、うっかり水たまりをふんでしまった。

のぞきこむと水面に私がうつっている。

ふんでできたさざなみのせいで水たまりの中のわたしの顔は、おばあさんみたいだ。いつか、お母さんも私も、年をとっておばあさんになるんだ。ふしぎだけど、あたりまえのこと。ふりむくと、小さくなったおじいちゃんが、変わらない笑顔で手をふっている。わたしも大きく手をふりかえした。

ずっとずっと、わたしの大切なおじいちゃん。

「行ってきます！」

○おかあさんの話を聞いて、ともこさんはどのようなことを考えたでしょう。
○家族の一員として、どのような心をもって家族をささえていきたいですか。
○まわりにいる高齢者に、どのような態度で接していけばいいか考えましょう。

学習をふりかえって、9ページに自分の考えを書きましょう。

高齢者を支える地域の取り組み

年をとって、いろいろなことが難しくなっても
安心して生活することができるように、
地域全体で高齢者を支える様々な取り組みが行われています。

見守り訪問活動

一人暮らしの人や寝たきりの人、地域と関わりがもちにくい人の家を定期的に訪問して、元気でいるか確かめたり、悩みごとの相談に乗ったりする活動をしています。

今までは、民生委員やシニアクラブ、社会福祉協議会が行っている福祉委員や見守り協力員などの様々な団体が見守り訪問活動を行っていました。しかし、最近は、新聞配達員さんや宅配業者さん、郵便局の局員さんなど、様々な仕事の方も見守り活動を行っています。

このような活動を通して、住民どうしが支え合って暮らしていける地域作りを目指しています。

民生委員とは？

くらしの中での悩みや困ったことの相談にのってくれる地域ボランティアさんです。安心して住み続けることができる地域になるように、見守り活動など様々な活動をしています。

福祉委員・見守り協力員とは？

地域に住んでいる方がボランティアとして行っています。地域で高齢者を支え、よりよい地域とするためにサロン活動や見守り活動などさまざまな活動に協力しています。

高齢者サロン

一人暮らしをしていたり、だんだんと外に出かけることが少なくなったりした高齢者が集まり、お食事会や健康体操など様々なレクリエーション活動ができるようにしています。

このような活動を通して、地域の人と人とのつながりを深め、お互いに助け合っていけるようにしています。

認知症徘徊ネットワーク

地域の人たちの力を借りて、自分の名前や住所を忘れてしまった高齢者を早く発見して、助ける訓練をしています。

この訓練を通して、高齢者に対する理解を広めたり、地域全体で高齢者を支える仕組みを作ったりしています。

なぜこのような取り組みが行われているのでしょう。

私たちは、地域の人、一人ひとりが安心して楽しく生活できるようになってほしいと思っています。特に、高齢者の方は、私たちが幼いときに地域を支えてくださった方で、大変お世話になった方です。そんなみなさんには、いつまでも元気で、笑顔で生活をしてほしいと思っています。

社会福祉協議会の方の話

あなたの地域には高齢者を支えるために
どのような取り組みがありますか。
調べてみましょう。

自分にできることはありますか。
考えてみましょう。

学習をふりかえって、10ページに自分の考えを書きましょう。

私たちにできること

やってみよう！

地域の見守り活動に参加してみたよ。高齢者の方が安心して生活できるように、私も声をかけよう！

勉強しよう！

ぼくもいつか高齢者になるんだな。だから、高齢者や高齢者を支えている人たちの願いや苦労、喜びなどを勉強してみよう。そして、自分にできることを考えてみよう。

わたし

行ってみよう！

高齢者サロンに行きました。たくさんの人と知り合いになりました。これからは、どこかで会ったらあいさつをしよう。

肩をもみましょう。気持ちがいいですか？また来ますね。これからもよろしくお願いします！

高齢者の持つ知恵や技能

地域には様々な伝統行事があります。その伝統行事を未来につなげる活動をしている方がいます。

戸畑祇園大山笠

戸畑祇園大山笠は、三百九十年以上続いている北九州市戸畑区のお祭りです。

お祭りの中で演奏される戸畑祇園ばやしを次の世代へ継承していくために子どもたちへ教えている方がいます。

古くからある伝統的な工芸品を作っている方もいます。

博多人形

博多人形は、日本の伝統工芸品の一つです。

博多祇園山笠で用いる山笠人形は、昔からの技術を継承し続けている博多人形師によってつくられています。

自らの特技を活かして様々な活動をされている方もいます。

おもちゃの病院

こわれた「おもちゃ」を無料で修理してくれるおもちゃドクターとして活躍されている方もいます。

寺子屋

学校の先生をしていた経験を活かして、寺子屋を開いて地域で活躍している方もいます。

あなたの地域にも、知恵や技能を活かして活躍されている方はいますか。さがしてみましょう。

① あなたのまわりに何かに一生懸命取り組んでおられる高齢者の方はいませんか。さがしてみましょう。

ぼくの知らない人たちが、校区でいろいろなことに取り組んでいるんだな。

わたしは、＿＿＿＿さんのところに行きます。

いっしょに行く人で集まって、たずねる内容をまとめてみよう。

② 高齢者の方のことを、もっとくわしく調べてみましょう。

（お宅を訪問してインタビューしてみよう。いろいろな発見があるかもしれないですよ。）

③ インタビューして、いろんな発見があったと思います。
「なるほど！」「すごいなあ！」と思ったことを、まとめましょう。

□さんは
こんな人です。

□さんの年表

80才	40才

学習をふりかえって、10ページに自分の考えを書きましょう。

④ 友達と情報交換しよう。
わかったことをメモしましょう。

⑤ この学習を通して、高齢者の方と
いっしょに、どんなことができそうですか。

いつもの公園

たけしは、放課後、友達と公園で遊ぶ約束をしました。

「たけし、家に帰ったらすぐ公園に来いよ。」

すすむがそう言いました。

「たくさん遊びたいから、早く来てね。」

と、たけしも答えました。

公園に着くと、ベンチにおばあさんが座っていました。

おばあさんは、ベンチに座ってうれしそうにほほえんでいました。

「おばあちゃん、どうしてにこにこしているの。」

たけしが聞きました。

「それはね、お花が、きれいに咲いているのを見ると、なんかウキウキしてくるの。

あっ、それから。町のみんなも喜んでくれるでしょうからね。」

おばあさんは、うれしそうに言いました。

そういえば、公園で遊んでいるときには、いつも花がさいていることに気がつきました。

たけしは、いつ、だれが、どのようにして花を育てているか知りたくなってきました。

ある日曜日の朝、公園の横を通っていると公園から声が聞こえてきました。

「こっちに花が足りないので、花を持ってきてください。」

「この花の色、すてきね。」

おばあさんやおじいさんたちの声が聞こえます。

よく見ると、この間のおばあさんもそこにいました。たけしは、思い切っておばあさんに話しかけました。

「おばあちゃん、いつも公園のお花を育ててくれているの。」

「春、夏、秋の花を季節ごとに育てているんだよ。」

おばあさんは、答えました。

「花は生きているので、しっかりとお世話しないときれいな花を咲かせないんだよ。だからわたしたちは、毎日交替で花のお世話をしに来ているんだよ。そうだ。今度の日曜日も花の植えかえをしているからおいで。」

とおばあさんはたけしに言いました。

次の日曜日の朝、公園に行ってみました。十人くらいのおじいさん、おばあさんたちが花の植えかえをしています。

たけしも花の植えかえを手伝ってみました。たくさんの花の入った入れ物を持って来たり、土の入った袋を運んだり、思ったよりも重たくてたいへんです。

（こんなたいへんな作業をしていたんだ。）

たけしは、おばあさんやおじいさんたちのたいへんさがちょっぴりわかったと思いました。

「たけしくん、今日は手伝ってくれてありがとう。」

おばあさんは、そう言いながらお茶をくれました。お茶をのみながら、おばあさんとたけしは、前よりもはなやかになった公園や植えた花を、にこにこしながら見ていました。

○おばあさんの行動を知って、たけしくんは、どのようなことを考えたでしょう。

○みんなのために活動しているおじいさんやおばあさんが、あなたのまわりにいませんか。考えてみましょう。

学習をふりかえって、10ページに自分の考えを書きましょう。